

### 飛騨3市1村の連携について

無会派  
小井戸 真人



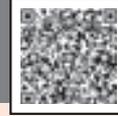
**問** 令和2年に実施された国勢調査の結果によると、飛騨3市1村の人口はこの15年間で約2万7千人減少し、約13万9千人となっている。著しい減少傾向であるが、この地域における共通課題と広域連携の必要性は。

**答** 人口減少によって生じる課題は共通していると認識しており、広域連携の必要性・重要性は一層高まっている。これまでも色々な面で連携して取り組んできているが、各自治体の状況、課題、特性などを考慮しつつ、より効果的な連携のあり方について協議していきたい。



### 高齢化に伴う買物弱者への支援を！

無会派  
山腰 恵一



**問** 人口減少や少子高齢化が進む中で、買物弱者が増えている。買物へのニーズや地域の実態をどう把握し、どのような支援を考えているのか。

**答** 状況調査では、商店の数や交通手段、移動販売の状況など地域ごとの課題を把握している。高齢化により買物手段が使えなくなる不安や商店がなくなる不安が多くあった。買物支援では、インターネットや最新技術の活用、公共交通の見直し、移動販売事業者との連携、配食サービスの拡充検討など民間事業者と連携をしながら考えていく。



### 困窮する市民への応援策を

無会派  
上嶋 希代子



**問** 市は「ほかほか燃料事業」(灯油代補助)を提案しているが、大変多くの市民が困窮していると考えられる。事業の対象範囲を広げることが必要ではないか。

**答** 今回の灯油補助制度は、平成20年と比べて対象を拡大している。生活保護・準要保護世帯、市民税非課税世帯については、全てに拡大した。さらにコロナ禍の今年に入って家計が急変し、非課税世帯相当となる世帯も給付の対象とする予定で進めている。困難な状況があれば総合窓口で相談者の状況に応じた支援制度を紹介するなど丁寧な支援に努めていく。



### 循環器疾患予防に向けた、適塩への取組は

高山市政クラブ  
石原 正裕



**問** 厚労省が示す1日の塩分摂取量の目標値は、男性7.5g、女性6.5g未満である。市民1日当りの塩分摂取量は。また、食生活における適塩への理解と適切な働きかけは。

**答** 市の健康診査、尿検査の推定値では40歳から74歳では男性9.6g、女性9.1g。市では、一人ひとりの状態に合わせた適切な塩分量やバランスのとれた食生活を推進し、保健指導も行っている。市内40店舗の小売店等と共に、減塩商品コーナーを設営する取組もある。減塩の関心が深まるようスマートミールの考え方も広報紙でお知らせする。

